

3 授業中（体育実技）の事故

【事例】

体育実技の授業（陸上競技）の際、1,500m 走のタイム測定を実施した。準備運動後、一斉にスタートしたが、800m ほど走ったところで生徒が突然倒れ、担当教諭が駆けつけた時には顔面蒼白で意識はなく、呼吸及び脈拍を確認できない状態であった。

○発生時の対応のポイント

[状況の把握]

- ・担当教諭は、当該生徒の意識の有無等の状況を迅速に把握し、救急車到着まで心肺蘇生や応急手当等を行うとともに、他の教職員（生徒）に AED を持ってくることや保健室への連絡を指示する。
- ・連絡を受けた養護教諭は、管理職に報告するとともに、救急車の要請や教職員の応援等を依頼し、応急処置に向かう。
- ・管理職は、事故発生時の状況及び発生直後の対応状況を正確かつ迅速に把握する。
- ・管理職は、学校の危機管理マニュアルの対応に基づき、養護教諭、担当教諭、学年主任等関係教員に指示する。

[保護者への対応]

- ・担任（学年主任）から当該生徒の保護者に事故の発生、生徒の状況、搬送先、事故への対応の経過等を正確に連絡する。
- ・管理職及び担任、担当教諭は速やかに病院に向かい、保護者に状況を説明する。
- ・管理職、担任等は、保護者に誠意をもって対応する。
- ・全教職員で事故の状況や対応について情報の共有、共通理解を図る。
- ・事故の状況や原因、今後の対応策等について保護者に説明し、学校の対応について理解を求める。

[教育委員会への報告]

- ・管理職は、事故の概要について、速やかに教育委員会へ報告し、対応策について指導・助言を受けるとともに、新たな情報があれば速やかに報告する。

[関係機関等との連携]

- ・救急車の到着後、教職員が同乗し、救急隊員に状況等を説明する。
- ・日本スポーツ振興センターへ災害給付の手続を行う。

[報道機関等への対応]

- ・報道機関や関係機関等への対応は、窓口を一本化し管理職が当たる。

○今後の対応策（未然防止）のポイント

[体育授業における事故防止]

- ・担当教諭は、生徒の健康診断の結果や当日の生徒の体調を十分に把握する。
- ・担当教諭は、生徒に自己の体調管理及び体調が悪化した場合の対処法について指導する。
- ・担当教諭は、健康観察を行うだけでなく、準備運動時、生徒自身に体調チェックを行わせる。
- ・担当教諭は、授業前に活動場所や用具等の安全点検を実施する。

[長距離走における事故防止のポイント]

- ・長距離走は、健康状態や気温等環境要因によって心臓への負担が大きくなる場合もあるため、保健体育科の年間指導計画を作成する際、実施時期や配当時数、授業時間帯等無理のない計画を立てる。
- ・長距離走を実施する場合は、必要に応じ、学校医による臨時の健康診断や健康相談を実施する。また、担当教諭は、日常の健康観察記録や心臓検診の結果、既往症の状況等を参考にしたり、当日の健康状態を確認したりする。さらに、主治医が作成する学校生活管理指導表がある場合は、これに基づく運動制限等を確実に行う。

[事故発生時に備えた学校体制の確立]

- ・心臓停止に関わる事故対応は一刻を争うため、心肺蘇生を適切に行う等、初期の対応が最も重要である。そのため、心肺蘇生（AEDの使用を含む）や応急手当についての講習会を定期的実施し、教職員の対応能力を高める。
- ・教職員は、AEDや担架の場所を把握しておくとともに、保温用毛布等、事故発生時に使用すると考えられるものについては、すぐに使用できるよう整備しておく。